

研究テーマ

腎臓内科疾患のデータベース作成ならびに腎臓病の新規診断法と新規治療法の開発

研究の意義・目的

現在、慢性の腎臓病が徐々に悪化して腎機能が低下していく慢性腎不全という病気で慢性透析をうけておられる患者さんは30万人を越えています。この増加の一つの原因として、多くの腎臓病は原因不明で、このために悪化した腎臓を元に戻すことができる決定的な治療法がまだないことが挙げられます。この腎臓病の有効な治療法の開発のために、腎臓病にかかっておられる患者さんの検体（試料）を用いた研究が欠かせません。患者さんからその経過に関する情報を頂き、検体（試料）による研究結果と経過を詳細に検討することで、病気の原因や、人によってどうして病気のすすみ具合が違うのかといったことを解明し、有効な治療法を開発したいと考えています。

対象

腎臓病と診断され、当科に精密検査や治療のために入院されたり、経過観察のために通院が必要とされたりする方

研究方法

治療の開始前と開始後、経過観察中の血液検体（遺伝子）や尿を将来の研究のために保存させていただきます。精密検査（腎生検）を受けられた方につきましては、腎生検で得られた腎臓の組織のうち診断に用いた後の残った部分も保存します。これらの検体を用いて、腎臓病の発症や進展に関わる因子があるか解析していきます。ご提供いただいた血液、尿、遺伝子、腎組織検体を利用して研究を実施できる研究者は、千葉大学腎臓内科に所属する医師・研究者と、千葉大学腎臓内科と共同研究の契約を結んだ研究機関の研究者です。これには企業を含みます。研究を実施する場所が共同研究機関となる場合には、千葉大学腎臓内科で保管している検体を、海外を含めた共同研究機関に提供する場合があります。

個人情報に関する手続き

血液、尿、腎組織から得られた試料やこれに関する診療情報から、個人を特定できる情報を、分析を始める前にすべて削除し、個人の情報とは全く関係のない符号を試料や診療情報に割り当てます。

検体、データ、符号の対応表等は、千葉大学医学部腎臓内科実験室のカギのかかる冷蔵庫やネットワーク接続していないパスワードのかかったPCで保管します。また本調査への参加を希望されない場合には、情報を用いる事はしませんので、以下の窓口までご連絡下さい。

研究組織

研究代表機関 千葉大学医学部附属病院 腎臓内科 (研究責任者 浅沼克彦)

共同研究機関 田辺三菱製薬株式会社 (研究責任者 川井瑞恵)

対応窓口

千葉大学医学部附属病院 腎臓内科 相澤昌史

[TEL : 043-222-7171 (内 5085)]

研究代表者

千葉大学医学部附属病院 腎臓内科 浅沼克彦